



閉園式の後、最後の卒園児16名と関係者で記念撮影



大願寺南側にあった旧保育所
(写真は昭和47年ごろ)

市立保育所55年の歴史に幕

4月から「まくらざき保育園」(別府福祉会)に

枕崎市立保育所が今年3月31日をもって閉園されることに伴い、3月25日に閉園式が行われました。式には、最後の卒園児となった16名の児童たちと保護者、歴代所長など関係者が参加。55年の歴史に幕を下ろすことへの名残惜しさと、子育て支援の拠点施設としての役目を果たしたという安堵の思いが入り交る中、肅々と進められました。

市立保育所は、昭和26年8月に市内2か所目の保育所として山手町の大願寺の南側に開設しました。当時は、戦後のベビーブームの中、待機児童が多く地元の期待は大きいものがありました。

昭和48年4月には、老朽化などにより、現在地に移転。当時では有数の広さと設備を誇り、定員も150名と活気に満ちていました。

しかし、時代が平成に変わる頃から少子化の影響を受け、平成16年4月からは60名の定員となっていました。また、近年は、地域の子育て支援

機能が求められ、保育ニーズが大きく変化しており、公立保育所としてこれらに柔軟に対応することが困難となっていました。そして、本市の推進する行財政改革の一環として、民間への移管が決まり、閉園することとなりました。

4月1日からは、公募により決定した移管先、社会福祉法人別府福祉会の運営する「まくらざき保育園」に引き継がれました。

これまで、市立保育所に対し、多大なご尽力をいただきました関係者の皆様、市民の皆様、本当にありがとうございました。



▶閉園式の様子



▶閉園記念碑の除幕

「原耕の像」が漁業漁村の歴史文化財産百選に

水産庁の主催する「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財百選」に、枕崎漁港内(松之尾公園内)にある「原耕の像」が選ばれました。

この百選は、漁村の魅力を掘り起こし、都市と漁村の交流を深めることを目的に行われ、鹿児島県内では「原耕の像」を含め、4件が選ばれています。

審査は漁業関係者や作家の立松和平さんなど有識者により選考委員会を設け、全国から応募があった350件の中から選出しました。

枕崎のカツオ遠洋漁業の父と呼ばれる原耕は、カツオ漁業の近代化・漁船の大形化により南方漁場を開拓し、枕崎の発展のため多大な尽力をされました。今回の選出で、改めてその功績の偉大さを認識させられます。

百選についての詳細は、全国漁港漁場協会のホームページをご覧ください。



このコーナーでは、生け花や山野草盆栽を趣味としている市民の協力により、季節のものを使った生け花等を置いてあります。これまで寂しかった玄関をパツと明るくして、市役所を訪れた人の目を惹かせています。



市役所正面玄関に、ポランティアのコーナー「何かやってみませんか」

「まず、何かをやってみて」と呼びかける言葉をもじってご付けましたポランティアとして「こんなことをしてみたい」などありましたら、環境生活課市民協働係(TEL72-1111 内線460)までご連絡ください。

枕崎校区老人クラブがAV機器を南浜館に寄贈

枕崎校区老人クラブ連合会が、昨年11月に火災に遭った南浜館の一日も早い復旧に、AV機器(テレビ・ビデオ)を寄贈されました。これは、同会員の方々が行った一日一円募金からいただいたもので、昨年も妙見の里へ物品を寄贈されています。

南浜館のAV機器は、来訪者向けの作品解説映像の放映に使われていましたが、火災により使用できなくなっていました。

南浜館は、今秋の再開に向けて取り組んでいるところですが、この機器を幅広く活用させていただきます。市民が気軽に来館できる施設運営を目指します。ありがとうございました。



「多様な生き方を認め合う」男女共同参画の実現に向け研修会

枕崎市男女共同参画研修会が3月24日、市民会館で開催され、男女共同参画懇話会委員や市職員など50人余りが参加しました。

会ではまず、2月に東京で行われた男女共同参画ヤングリーダー会議に出席した外園亜希子さんが、その様子を報告。本市の女性の雇用問題や行政との連携不足など、問題点を指摘されました。

続いて、鹿児島純心女子大学の谷崎和代助教による講演が行われ「男女共同参画は個人の意識の変化がないと先に進まないが、正しい情報をキヤッチしながら理解を深めなければならない」と自分の体験談を交えながら話されました。

